

授業科目	日本語教育方法論演習Ⅱ				単位	2		
履 修	選択	関連資格	日本語教員		ナンバリング			
開講年次	2	開講時期	後期	該当DP	DP3-1 DP4-1 DP4-2			
担当教員	矢野 花織							
授業概要	<p>学期はじめは、日本語教育に関わる専門職、日本語学習者、教材などについて学び、教科書分析、教案作成などを通して、外国語としての日本語教育の実践についてイメージを膨らませる。その上で、学生が互いに教師役、学習者役に分かれて模擬授業(マイクロ・ティーチング)を行う。教師役は学習者、学習レベル、学習時間などに考慮して教案及び補助教材を作成し、特定の学習項目を教える。学習者役は学習者になりきって模擬授業を受けることで、学習者の心理を擬似体験する。それぞれの立場から模擬授業を評価し合うことで学びを深めていき、来年度の実習に備える。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語教育の実践場面のイメージを描けるようになる 2. 教案を作成し、実際に授業をすることができる。 3. 授業を客観的かつ多角的に観察・分析することができる。 							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	30	30	20	20	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)								
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)			30				30	
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)				30	20		50	
態度(DP4-2)						20	20	
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
学んだことを、自分のことばで他の人に分かりやすく説明できる。				<ol style="list-style-type: none"> 1. 教材の分析ができる。 2. 教案を作成し、実際に授業をすることができる。 3. 授業を客観的かつ多角的に観察・分析することができる。 				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法		学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)
1	オリエンテーション 授業の概要を説明し、履修方法や授業の目的、達成目安、評価の内容と方法を理解する。			講義・演習		復習: 該当部分の復習		60

2	日本語教育のキャリア 日本語教師、日本語教育コーディネーター、日本語学習支援者の役割や実践内容について知り、将来の選択肢の幅を広げると同時に、本演習での学びの意欲につなげる。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
3	日本語教育に関する施策 文化庁や出入国管理庁など関係省庁や自治体などの施策・取組について知り、社会と日本語教育の関連性、さらに本講義と自分の将来像とのつながりを意識する。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
4	日本語学習者の背景とコースデザイン 留学生、生活者としての外国人、就労者、児童生徒等、多様化する学習者の現状について理解を深め、そのニーズ・レディネスに応じた日本語教育について考える。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
5	日本語教師の果たす役割 異文化間教育としての日本語教育において教師が果たすべき役割について動画をもとに考え、第二言語を習得する要因について話し合う。ファシリテーションの技法を学ぶ。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
6	教材分析 市販テキスト「みんなの日本語」、文化庁「つながるひろがるにほんごでのくらし」、国際交流基金「いろどり」などの教材を分析・研究する。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
7	外国語教授法・教案(学習指導案)分析 外国語教育を題材に、さまざまな教授法について学ぶ。 教案(学習指導案)を見て、その構成や書き方を分析する。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
8	授業観察 日本語の授業の動画を視聴し、コメントしあう。 授業をする上でどのような準備ができるか、レリアやアクティビティなどについて話し合う。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
9	教案作成 日本語の授業の動画を視聴し、その題材をもとに教案作成の練習をする。作成した教案を共有し、意見交換を行う。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
10	模擬授業に向けて それぞれが模擬授業における対象としたい学習者を設定し、そのニーズに合わせた教案、教材などを作成する。作成したものをグループに分かれて発表しあう。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
11	マイクロ・ティーチング1 授業担当者(グループ1)が、他の学生を相手に模擬授業を行う。授業後、コメントを出し合うフィードバックセッションを行う。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
12	マイクロ・ティーチング2 授業担当者(グループ2)が、他の学生を相手に模擬授業を行う。授業後、コメントを出し合うフィードバックセッションを行う。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60
13	マイクロ・ティーチング3 授業担当者(グループ3)が、他の学生を相手に模擬授業を行う。授業後、コメントを出し合うフィードバックセッションを行う。	講義・演習	予習: 該当部分の予習	60

14	ワールドカフェ 模擬授業をした感想や改良すべき点をワールドカフェ形式でざっくばらんに話し合い、次年度の教育実習に向けた新たな気づきを得る。	講義・演習	予習:該当部分の予習	60
15	まとめ 後期で学んだことの振り返りを行う。	講義・演習	予習:該当部分の予習	60
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	日本語教育方法論Ⅰ、Ⅱ及び日本語教育方法論演習Ⅰで学んだこと。			
テキスト	授業中に指示します			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	『みんなの日本語初級Ⅰ第2版 本冊』スリーエーネットワーク(2012) 『みんなの日本語初級Ⅰ 翻訳・文法解説英語版』スリーエーネットワーク(1998) 『増補改訂版 新・はじめての日本語教育Ⅱ 日本語教授法入門』高見澤孟(アスク)(2016)			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	1. 今までに学んだ日本語教育に関する知識を実際に運用してみる授業です。 2. 授業を通して、日本語教育・教師・学習者に関する気づきを深め、「異文化間教育としての日本語教育」に対する理解を深めてほしいと思います。			

達成度評価に関するコメント	「達成度評価」の「その他」は、授業への積極的参加とする。 積極的参加(20%)、教案作成(20%)、マイクロ・ティーチング(30%)、期末レポート(30%) 欠席1回につき、「出席を含む授業態度」が3パーセントずつ減点されます。欠席5回で自動的に不可となり、遅刻・早退は2回で欠席1回とみなされるので、正当な理由があり欠席・遅刻・早退する／した場合は、必ず届け出ておくこと。
---------------	---